

## 第 63 回日本 P T A 全国研究大会 札幌大会

報告者

富士市 P T A 連絡協議会

副会長 深澤 大介

1 日目

第 1 分科会

「南極観測隊というチーム」

南極料理人 西村 淳 氏

1000 人以上の聴衆の中、導入から食にまつわる面白エピソードで笑いを誘い観客をひきつけ、  
-50℃の過酷な環境で 1 年間を過ごす 9 人の男たちのチームワークを料理人の眼から話して  
いただきました。

南極生活で学んだこと。

1. 「いい人になるな」

簡単に同意してはいけない。あらゆるトラブルを想定し、

一人の提案を色々な角度から検討することの大切さ、盲点をついた素人発想の凄さ。

2. 「壁にぶつかったら、一休み」

がむしゃらに前に進むだけではだめ、ちょっと一服してみんなで考え、

時には引き返す勇気も必要。

以上の 2 点を南極での実体験をもとに笑いあり涙ありの話。

また映像でも風速 50m のブリザードから、

満天の星に神秘的なオーロラまで、聴衆を楽しませてくれました。

巧みな話術であっという間の 90 分でした。

2 日目

全体会

「あなたは子どもたちの想像力を育てていますか？」

脚本家 倉本 聡 氏

倉本氏が小 4 で山形に疎開していたときに、青年将校が学校にきて

「この中で国の為に特攻を志願する者、前に出ろ」と言われて、

上級生が前に出たので、自分も友達と顔を見合わせて恐る恐る前に出た。

最後まで前に出なかった子が 3 人いた。

彼らはその後、卑怯者と周りからいじめられた。

その話を父にすると、「どっちが卑怯者かな？」と言われた。

自分はいじめられるのが嫌で前に出た。

今でもそのことがトラウマになっている。

身につまされる重たい話から始まりました。

「水と油」どちらが大切？

「車と足」どちらが大切？

「知識と行動」どちらが大切？

「批評と創造」どちらが大切？

ドラマ、舞台で倉本氏が常に訴えていることを  
生の言葉で投げかけてもらいました。